

佐々町立佐々中学校 学校だより(HP)

「恒風」

第 18 号 令和 4 年 12 月 16 日(金) 文責 校長 井上博之

○ これまでを振り返って 学校評価（前期）の結果と分析

今年度の学校評価は、昨年度までの反省から、評価項目内容及び集計方法を次のように変更しました。①「学校教育目標の実現」に内容を絞り、「めざす生徒像」「教師像」「学校像」のそれぞれに関する質問項目を新たに見直し設定する。②同じ質問項目を生徒、保護者、教師の視点でそれぞれ評価し、比較する。※紙配布版では裏面に集計結果を掲載

〈生徒の評価結果〉

- 全体的に、全項目の平均値は 3.5/4.0（肯定的な回答は 93.8%）で、ほとんどの項目が 3.0 以上であり、全体的には多くの生徒が学校教育目標を意識し、真面目な学校生活を送っていることが推察できました。（R3 年度も全項目平均＝3.5）
- 特に「めざす生徒像」の中で質問 1～7「①差別や偏見を許さず、常に公平・公正な判断と態度を意識して行動ができる」の平均が最も高く 3.7 でした。質問 8～15「②思いやりをもち、互助の精神、人との交流や協働の大切さと喜びを実感できる」の平均が次に高く 3.6 でした。質問 16～27「③夢や目標をもち、より良く生きるために主体的に学び、根気よく考え、行動できる」の平均は 3.3 で①～③の中では最も低い結果となりました。
- ③の中でも、No.24「家庭学習の取り組み」：3.1、No.25「読書」：3.0、No.27「生き方や進路」：3.1 に関する質問への回答が低く、これらの項目はこれまでも学校の課題として挙げられているポイントでした。
- 今年度は「人権教育の充実」と「ピア・サポートプログラムの導入、実践」を行っていますが、集計結果から、これまでの取組が生徒の意識の向上につながっていると考えられます。

〈保護者、職員の評価結果〉

- 保護者の全項目の平均値は、保護者 3.1/4.0、職員 3.0/4.0 であり、生徒よりも厳しい評価結果でした。全体的には生徒とほぼ同じ傾向で「めざす生徒像」の①②③の項目のまとまりごとの平均値を比較すると、①3.4>②3.2>③2.9 でした。
- 教師は、「めざす生徒像」の①②③の項目のまとまりごとの平均値を比較すると、②3.2>①2.9>③2.8 であり、特に①の、No.7「情報モラル」が 2.5 で最も低く、生徒・保護者の評価との差が最も大きかったです。これは、特に 1 学期に各学年で情報モラルのトラブルが複数発生したことが要因の一つと考えられます。
- 生徒の課題として挙げた③の各項目は、No.24「家庭学習の取り組み」保護者：2.8、職員：2.6、No.25「読書」保護者：2.6、職員：2.6、No.27「生き方や進路」保護者：2.7、職員：2.5 と、生徒と同様に低く、課題としての認識は保護者、職員の評価からも共通していることが分かりました。
- めざす教師像、学校像に関する評価は全体的には高評価ですが、No.32「安心安全な環境」は職員：2.7 と低く、これは校舎外壁その他の劣化、修繕箇所の多さが原因と考えられます。

- No.35「保護者や地域との交流」は保護者：2.9 と低いですが、今年度も感染拡大防止のために地域や保護者との交流、活動場面での制限による影響と考えられます。